

沼垂 かがみ



〈学校の教育目標〉

- よく考える子
- 力をあわせる子
- 体をきたえる子

〈児童数〉

男子 187名
 女子 181名
 計 368名
 (家庭数 298)

発行 新潟市立沼垂小学校 広報部
 TEL(247)5326 FAX(247)5327

ホームページ <http://www.nuttari.city-niigata.ed.jp/>

学校のページを
 随時更新しています。
 是非ご覧ください。



今月号の内容

- 巻頭言
- 運動会
- 学校教育ビジョンから

運動会く勝敗から学ぶこと

校長 門倉 純一

つことを学ぶ機会にもなります。

さらに、勝ち負けを経験することは、挑戦する勇氣や失敗から学ぶ力を養う機会にもなります。困難に立ち向かう強さや、自信をもつことにつながります。

このように述べた利点はあるものの、運動会で勝敗にこだわりすぎる雰囲気にならないか不安はありました。子どもたちの心が熱くなってしまい、自分の周りの雰囲気を感じることができない場面も多々あるからです。

さて、最近、学校の運動会やスポーツ競技で、勝敗や順位を付けないことを耳にします。その理由は、いくつもあるようです。競争の過剰な強調がストレスや不公平感を生むことを避けるためや、多様性や個性の尊重により参加者全員が楽しみながら参加できる環境を提供するためなどです。

それに対し、沼垂校では、徒競走やリレーで順位付けをし、赤組白組が競技や応援で勝敗を競い合っています。運動会において勝ち負けを学ぶことや受け入れることは、人間の成長にとって重要な要素があります。

その一つは、自身の努力やチームの取り組みを客観的に評価し、改善点を見つける機会になることです。

次に、競争の中での勝敗は、協調性やチームワークの重要性とともに、相手を尊重し、フェアプレーの精神を持

が、その心配を吹き飛ばしてくれました。赤組塚良多団長は、応援優勝が取れなかったことを「みんなはとても応援を頑張った。点差は四点だけ、これは力の差はほとんどないということ。心の中でよくやったという気持ちが大切」と主張。白組佐藤希団長は「まずは赤組のみなさん競技優勝おめでとうございます」と相手を敬う態度を表明。勝負を通して、自分の頑張りや付く、ともに戦ったライバルをリスペクトする、心の成長と運動会の意義をみんなに知らせてくれた瞬間でした。

勝ち負けを学ぶことや受け入れることは、子どもたちにとって豊かな体験の一つとなりますが、それにこだわりのすぎることによる弊害がないとも言えません。私たちは、運動会の意義や、挑戦する勇氣や失敗から学ぶ力などの教育的な側面を考慮しながら今後も学校行事を適切に進めていきます。